

「神楽よさこい」は どのような経緯で生まれた？

安芸太田町地域は伝統ある神楽の宝庫です。
無形文化財の指定を受けた神楽をはじめ、
多くの古典神楽や旧舞、新舞といわれる神楽を演舞する神楽団が多くあります。

そのような歴史もあり、2013年（平成25年）「神楽よさこい」は
安芸太田町健康運動クラブ連絡協議会（運動クラブ）が、
ひろしまフラワーフェスティバル（ひろしまFF）の
「きんさいYOSAKOI」に参加するため制作されました。

2012年（平成24年）1月7日「広島健民コンクール」運動推進部門で最優秀賞を受賞し、
さらに「健康大使」に任命された栄誉を記念したことが参加のきっかけです。
また当時、安芸太田町が県内初の「森林セラピー®基地」の認定を受け、
ヘルスツーリズム推進と都市との交流を促進する町として
大々的にPRをしようという熱い思いがありました。
ひろしまFF参加を経て、健康づくりの機運が高まり、2014年（平成26年）に
「健康のまち」宣言が出されました。

歴史ある「神楽」、ひろしまFF出場に求められる「よさこい」を
掛け合わせたものが「神楽よさこい」です。

音楽は、地元の津浪神楽団へ依頼し、話題性や馴染みのある勇壮な神楽
「塵倫（じんりん）」を、「きんさいYOSAKOI」の参加条件である「4分30秒」の
曲の長さに収録してもらいました。

「舞わないと太鼓は叩けない」ということで、
通常30分以上ある囃子（はやし）を時間内に調整するため、
舞う人も囃子の人もそして録音スタッフも、
いくら時間がかかったか覚えていない程のご苦労だったそうです。

振り付けは、日頃より運動指導をしていただいている
「(株)メディカルフィットネスB-1 健康運動指導士 松本 直子 中尾 昌代」の
両先生に創作していただきました。

神楽の音楽には楽譜がないため、
踊りを振り付ける前の楽譜のようなものを作り上げるのに、
大変なご苦労をされたそうです。

「塵倫」を舞う津浪神楽団の姿を実際に見られて振り付けされた動きは、
全身の筋力を鍛え、バランス能力を養う有酸素運動になっています。

このようにして「神楽よさこい」の曲と振り付けが完成したのが、
2012年（平成24年）12月のことです。



「神楽よさこい」は著作権登録をしています！

この楽曲（音楽）と楽舞（踊り）は、安芸太田町健康運動クラブ連絡協議会が2013年（平成25年）2月5日、
文化庁に著作権登録をしています。